

千葉県がん対策推進計画について

千葉県健康福祉部理事 山本 尚子



山本尚子理事

みなさま、こんにちは。山本です。この会は、千葉県内にあるがん患者さんを支えるさまざまな団体を中心となって実行委員会を作り、何カ月も前から多くの時間をかけ、今日も今朝からこの会の準備をしてくださいました。どうもありがとうございます。また、本日学生さんを含め

て若いボランティアの方にも参加していただいております。そういう中で今回少し千葉県のがん対策推進計画についてもお話したいと思えます。

“ちからを合わせてがんを打ち克つちば”

千葉県のがん対策推進計画は「ちからを合わせてがんを打ち克つちば」を目標に掲げました。この計画はさまざまな検討会の中で、あるいは専門委員会の中で、タウンミーティング、パブリックコメントという形でいろんな方に参加していただきながら作って参りました。さきほどのアンサーパッドでの回答によると、意見を述べたことのある方は会場の中にはそれほど多くはなかったようですが、いろんな方のご意見をまとめて作り上げた計画です。

全体の目標としては、県民の一人ひとりががんの予防と早期発見に努めることで、また、質の高い医療を受けることでなんとか死亡率を減少していきたいと思えます。また、今日のテーマである患者さんとそのご家族が安心して納得した医療が受けられるように情報提供や相談・支援をしていくということ、患者さんご家族の生活の質が向上するように努めたいと思えます。

施策の大系の中で7つの柱がございます。がんのことについては、予防、医療、早期発見、在宅緩和ケア、相談・情報提供、また、さまざまな教育啓発普及、研究をやっていこうということで、施策ができています。

一つは早期発見・予防ということですが、がん

の検診についてもっと身近なところで受けやすい環境を作り、またぜひ受けていただくということ、タバコの対策を含めて予防・知識を普及していくということもやっていかななくてはなりません。

13のがん診療連携拠点病院を配置

また、特に力を入れましたのは、医療の分野でございます。“がん診療連携拠点病院”という名前がありますが、がんの診療を先進的ながんの治療、あるいは標準的ながんの治療をきちんとやっていただく病院を千葉県の中に確保して、そこを中心に千葉のがん医療を良くしていこうということで、千葉県は全国の中でも非常に多くの拠点病院を入れさせていただきました。みなさまに配られました資料の中に、「千葉県がん対策推進計画概要版」が入っております。15 ページに地図がございますし、17 ページには千葉県のがん診療連携拠点病院の一覧表、名前、住所、連絡先が載っています。

今日、相談窓口を知っているのはたいへん少ない方でしたが、相談窓口があるということ、医療関係者からちゃんと伝えられている方はもっと少ない数字でございました。この13のすべてのがん診療連携拠点病院の中に患者さんへの相談支援センターを作っております。相談窓口の電話番号も17 ページに載せてあります。それぞれの病院で、患者さんへの相談を充実させようとしておりますし、特に千葉県がんセンターであれば他の病院で治療されている方でもけっこうですので、相談窓口を利用してみてください。

あるいは、患者さんや体験者＝ピアによるサ

全体目標

- 県民一人ひとりが、がんの予防と早期発見に努め、質の高いがん医療を受け、がんの死亡率を減少
- がん患者とその家族が安心して納得した医療を受けられるよう、情報提供や相談・支援の体制を整備
- がん患者や家族の生活の質を維持・向上

(表1)

ポートも掲げてあります。また、緩和ケアの体制を充実していくということで、具体的には、いくつか今年度の事業を計画しております。今日の大集合もそうですけれど、予防のキャンペーンを今月ががん制圧月間ということもありません、いくつか予定されております。

今後の事業予定について

20年度の事業

- ・ピンクリボンキャンペーン in ちば
9月20日（土）日立柏サッカー場
23日（火）フクダ電子アリーナ
27日（土）マリスタジアム
- ・禁煙推進県民フェア（21年2月予定）
- ・口腔ケアモデル事業
- ・緩和ケア研修・相談員研修
- ・ピアサポートのあり方検討
- ・在宅がん緩和ケアシステム構築モデル事業
- ・緩和ケアフォーラム（21年2月予定）
- ・がん医療関係者の育成（表2）

また、口腔ケアモデル事業とは、がんの化学療法を受ける前にきちっと口腔ケアをやることでさまざまな副作用が少なくなる、あるいはより良い経過が出るのではないかとということで地区の歯医者さん、歯科医師会の方々とも協力してやっていこうということでございます。

また、私たち医療関係者も教育し、より質の高い医療をしていかなければならないと考えて児がんのお話をいただきましたが、千葉県のがん対策基本計画は3月にできたばかりですけれども、小児がんの問題について必ずしもカバーできていないなと思います。この分野では特に教育の問題、就職の問題、それからさまざまな問題について特段の配慮が必要で、十分ではなかったもので、そこはこれからますます取り組んでいかなくてはならないと思います。

パワフルな小倉先生のお話に圧倒されましたけれども、実は先だって別のシンポジウムで、

がん患者さんの就労の問題、働き方の問題についても問題提起がありました。そちらのシンポジウムでのアンケートでは、がんになったことで働き盛りの3分の1は転職を余儀なくされるか、あるいは仕事を変えなければいけない、あるいは収入が減ってしまうというような問題も提起されておりました。そういう意味で今回私たちの計画は保健・医療・福祉の人間で作りましたけれど、もっと広い働く場＝企業などの人たちの視点も必要となってくるのかなと思っておりました。今日、“地域チーム”というお話がございましたが、がんに向かう千葉県の中での多様な人が参加する地域チームができればいいなと思います。

医療・県民・行政一体と なって実のある計画に

いずれにしても、計画を作っただけではいけませんので、計画よりも実行ということで、これからどうしていくのが問題です。たとえば、セカンド・オピニオンのお話が出ました。千葉県の拠点病院ではすべてセカンド・オピニオンを受けられるようになっております。でも、ほんとうに受けやすいのだろうか、自分の望んだ時に適切なセカンド・オピニオンが受けられるのだろうか、それを受けるにあたって自分の主治医は早く資料を提供してくれるのだろうか、さまざまな問題があると思います。この計画はこれからもフォローアップしていきますので、みなさんの立場で思ったこと、もっとこういうふうに変えるべきだということをどしどしご指摘いただきたいと思っております。

もうひとつは今、医療の状況は非常に厳しい環境にあります。そういった意味でも医療関係者と県民・行政が一緒になって千葉で適切な医療、あるいはケア・支援を受けられる、そういった街を作っていきたいと思っております。今日の患者大集合がその一歩になればいいなと思っておりますし、今日のネットワークがこれからも続くことを願っております。

ご清聴どうもありがとうございました。